

第 118 回・日商簿記検定試験 2 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

当座預金	受取手形	売掛金	売買目的有価証券
未着品	積送品	委託販売	前払金
建物	建設仮勘定	支払手形	買掛金
受託販売	前受金	裏書手形	割引手形
売上	未着品売上	積送品売上	売上値引
仕入割引	有価証券利息	有価証券売却益	仕入
仕入値引	売上割引	社債利息	有価証券売却損

1. 「商品の引渡日から 30 日以内に代金の決済を行った場合には 3%の割引を行う」という条件で商品 40,000 円を掛売りしたが、商品の引渡日から 30 日後に当たる本日、3%の割引額を控除した金額が当座預金の口座に振り込まれていた。
2. 他店より販売を委託されていた商品を 100,000 円で掛売りした。
3. 遠隔地にある仕入先に商品 100,000 円を注文していたが、本日この商品に取り組みられた額面 60,000 円の荷為替手形の呈示を受けたので、これを引き受け、商品の貨物引換証を受け取った。
4. 2 月 23 日、手許にある額面総額 100,000 円の社債を額面 100 円につき 97 円の裸相場で売却し、売却代金は端数利息とともに受け取り、直ちに当座預金とした。なお、この社債は、売買目的の有価証券として、当期の 12 月 12 日に額面 100 円につき 96 円の裸相場で買い入れた他社発行の社債（利率年 3%、利払日は 3 月末と 9 月末の年 2 回）である。また、端数利息の金額については 1 年を 365 日として日割りで計算する。
5. 建設会社に依頼していた建物の建設工事が完了し、建物の引渡しを受けたので、建設工事代金 5,000,000 円からすでに支払っていた手付金 2,000,000 円を差し引いた残額 3,000,000 円を小切手を振り出して建設会社に支払った。

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金	38,800	売掛金	40,000
	売上割引	1,200		
2	売掛金	100,000	受託販売	100,000
3	未着品	100,000	支払手形	60,000
			買掛金	40,000
4	当座預金	98,200	売買目的有価証券	96,000
			有価証券売却益	1,000
			有価証券利息	1,200
5	建物	5,000,000	建設仮勘定	2,000,000
			当座預金	3,000,000

・解説

1. 売上割引に関する問題です。売上割引は、早期回収の見返りとして代金の割引を行う際に使う勘定をいい、金融上の取引に起因するものなので、売上戻りや売上値引のように売上控除項目として処理するのではなく「売上割引」という独立の科目をもって、営業外費用として処理することになります。

本問も早期回収の要件を満たしていますので売上割引を計上することになりますが、早期回収の要件は会社・取引ごとに異なり、日商簿記検定 2 級の仕訳問題で出題される場合は必ず問題文に指示がありますので暗記する必要はありません。

売上割引に関する問題は、第 104 回の問 4や第 112 回の問 2、第 126 回の問 4でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

2. 特殊商品売買の受託販売に関する問題です。受託した商品を売り上げた場合、販売先から代金を受け取るのは当社ですが、それは委託者が受け取るべきものを一時的に預かっているだけにすぎません。

そこで受託販売を行った場合は、受け取った代金を預り金勘定の性質をもつ「受託販売」勘定で一時的に処理しておくことになります。

受託販売に関する問題は、特殊商品売買の頻出論点で、第 100 回の問 2や第 101 回の問 2、第 105 回の問 3、第 112 回の問 4、第 113 回の問 1、第 114 回の問 5、第 124 回の問 2、第 125 回の問 5、第 126 回の問 1、第 128 回の問 4でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

3. 荷為替手形に関する問題です。問題文に「商品の貨物引換証を受け取った」とありますので借方に未着品勘定を計上し、その商品代金のうち荷為替手形引き受け分に関しては貸方に支払手形勘定を、残額については買掛金勘定を計上します。

このような問題の場合、買掛金で処理する 40,000 円については指示がないことが通常ですので、この点については割り切って覚えてしまうようにしてください。

荷為替手形に関する問題は、第 110 回の問 3や第 115 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 2でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

4. 有価証券の売却に関する問題です。本問は「有価証券利息を受け取った仕訳」と「売買目的有価証券を売却した仕訳」を分けて考えることをおすすめします。

ではまず「有価証券利息を受け取った仕訳」を考えてみましょう。問題文に「端数利息の金額については 1 年を 365 日として日割りで計算する」とありますので、前回の利払日の翌日から売却日までの 146 日分（=31 日+30 日+31 日+31 日+23 日）の有価証券利息を認識することになります。これは以下のような計算式で算定することになります。

$$100,000 \text{ 円} \times 3\% \times 146 \text{ 日} \div 365 \text{ 日} = 1,200 \text{ 円}$$

★解答①

(借) 当座預金 1,200 / (貸) 有価証券利息 1,200

では次に「売買目的有価証券を売却した仕訳」を考えていきますが、こちらは簡単なので特に問題はないと思います。有価証券の売却損益は、**帳簿価額と売却価額の差額**で求めることができます。

■有価証券の帳簿価額=96,000=96,000 円

■有価証券の売却価額=100,000 円×0.97=97,000 円

■差額=1,000 円 (帳簿価額<売却価額・・・売却益)

★解答②

(借) 当座預金 97,000 / (貸) 売買目的有価証券 96,000
(貸) 有価証券売却益 1,000

最後に2つの仕訳をまとめて解答用紙に記入すれば完了です。このように取引を分解して考えると簡単になりますので、参考にしていただければ幸いです。

有価証券の売却に関する問題は、第105回の間2や第107回の間1、第111回の間1、第113回の間2、第116回の間2、第119回の間3、第121回の間2、第122回の間3、第125回の間2というようによく出題されていますので、きちんと過去問対策をするようにしてください。

5. 固定資産の購入に関する問題です。本問のように、建設中に建物代金の一部を支払った場合には、建設仮勘定を計上して支出額を記録しておき、建設完了・引渡時に建物勘定に振り替えることとなります。なお、**建設仮勘定は減価償却の対象にならない**のでご注意ください。

☆参考・工事代金の一部を前払いしたときの仕訳

(借) 建設仮勘定 2,000,000 / (貸) 現金など 2,000,000

★解答・建設完了・引渡時の仕訳

(借) 建物 5,000,000 / (貸) 建設仮勘定 2,000,000
(貸) 当座預金 3,000,000

固定資産の購入に関する問題は第101回の間3や第120回の間5、第125回の間4、第128回の間1でも出題されていますが、建設仮勘定に絡めて問われるケースが多いです。